

察できるため、この種の調査に十分活用でき効果的であると考えられる。

以上、音響給餌ブイと水中監視カメラの作動状況について示したが、ともに正常に作動したのは調査期間中の約5割であった。

表-7 音響給餌ブイ及び水中監視カメラ作動状況



凡例 — : 正常に作動 : 作動不良

- ①, ②給餌口開閉モーター軸浸水により放音のみ : 注油により修復
- ③台風により給餌口開閉モーター水没及び太陽電池パネル破損により放音のみ : モーター取り替え及び配線替えて修復
- ④飼料格納庫過湿による餌詰まりで放音のみ : 清掃により修復
- ⑤タイマー故障で給餌、放音なし : タイマー交換により修復

A, B, C, Dは魚礁A, B, C, Dの設置時期

4. 調査方法

1) 現況調査

現況調査は音響給餌ブイ設置に前後して渡嘉志久地先全域の地形、底質、生物相の概略を調査した。地形、底質については目視観察により調査した。生物相については渡嘉志久地全域に定点を設定し、サンゴの生育状況、海藻類、底生生物については2m×2mの方形枠により調査し、魚類相については定点付近を20分間目視観察することによって調査した。なお、魚類については音響給餌ブイのシンカーを中心としたトランセクトラインを設けその出現状況も調査した。また、人工種苗放流が計画されるハマフエフキの当海域における動態について地元漁業者より聞き取りを実施した。